

令和6年度 三重県 英語教育改善プラン

目標

外国語によるコミュニケーションを図る素地・基礎となる資質・能力の育成
～言語活動の充実のためのICT活用・指導と評価の一体化の推進～

- 「『CAN-DOリスト』形式による学習到達目標の達成状況の把握」(R5 : 83.8% ⇒ R6 : 100%)
- 「英語の授業における I C T 機器の活用状況 (発話や発音を録画)」(R5 : 63.2% ⇒ R6 : 70.0% 以上)

1. 目標に対する現状

改善が進んだ点

①「授業における、児童の英語による言語活動の時間の割合」が増加した。

(R4 : 91.3%⇒R5 : 95.9%)

②「英語の授業における I C T 機器の活用状況 (発表ややり取りをする活動)」が改善した。

(R4 : 85.1%⇒R5 : 87.9%)

③「英語教育に関する小中連携の実施状況」が改善した。

(R4 : 68.2%⇒R5 : 83.1%)

未だ改善が必要な点

①「『CAN-DOリスト』形式による学習到達目標の達成状況の把握」が昨年度から減少した。

(R4 : 86.8%⇒R5 : 83.8%)

②「英語の授業における I C T 機器の活用状況 (発話や発音を録音・録画)」が昨年度から減少した。

(R4 : 67.8%⇒R5 : 63.2%)

③「新規採用者に占める一定の英語力を有する者の割合」は引続き改善の余地がある。

(R4 : 15.9%⇒R5 : 17.4%)

2. 要因分析

①研修及び指導主事会や英語通信等で言語活動の定義を明確化したり必要性和その具体について発信したりしたことで、言語活動を中心とした授業実践が増加したためと考えられる。

②研修で、講師や県内教員同士が発表ややり取りのパフォーマンステスト等で I C T を活用する方法について紹介したことで改善したと考えられる。

③県内 2 地域で小中高連携チームを立ち上げ取組を行い域内や指導主事会で事例を共有し、小中連携を促進したことで改善したと考えられる。

①「『CAN-DOリスト』を活用した授業づくりの実施に学校間の差が見られる。指導と評価の一体化を図るための『CAN-DOリスト』形式による学習到達目標の達成状況の把握」の重要性を県内全域には浸透させることができなかったことが要因と考えられる。

②学習者用デジタル教科書等、授業における児童の英語力向上につながる主体的な学びのための効果的な I C T の活用場面や方法が明確化できておらず事例の発信も少なかったことが考えられる。

③新規採用者試験における加点制度の周知や英語能力向上の重要性の浸透が不十分であると考えられる。

3. 目標を達成するための施策・事業

①児童の英語による言語活動の充実の推進

引き続き、児童の英語による言語活動の充実のために、言語活動を中心とした児童のコミュニケーション力を高める授業づくりについて、講師の講義・公開授業を伴う研修を実施する。

③小中連携のさらなる推進

引き続き、発達段階ごとの言語活動の様子を交流し接続を意識した指導に活かすため、全校種を対象としたSmall Talk等の演習をともなう研修を実施する。

①指導と評価の一体化の推進

・児童の自己肯定感を高めるための指導と評価をふまえた英語の授業づくりについて学ぶ研修を実施し、「『CAN-DOリスト』形式による学習到達目標の達成状況の把握」の重要性を伝える。

・先進的に指導と評価の一体化に係る推進事業を行った県外への視察・情報収集を行い、その結果を英語通信や指導主事会等で共有し、県内全域で指導と評価の一体化の推進につなげる。

②英語の授業における児童の 1 人 1 台端末等の等の活用の推進

・言語活動を充実させ児童の英語での発信力向上を図るため、研究推進校において I C T 活用の効果検証を行い、検証結果を踏まえた実践公開を伴う I C T 活用研修で県内に成果を共有する。

・先進的に ICT 活用に係る推進事業を行った県外への視察・情報収集を行い、その結果を英語通信や指導主事会等で共有する。

③新規採用者に占める一定の英語力を有する者の割合を増加させるための取組

CEFR B2相当以上に加え、CEFR B1レベルにおいても、新規採用者試験において加点制度を導入。また、大学説明会や教職ガイダンス等を利用して英語加点を説明し英語能力向上の重要性を周知し、英語免許状所有者、英語資格取得者の増加を図っていく。

令和6年度 三重県 英語教育改善プラン

目標

外国語によるコミュニケーションを図る資質・能力の育成

～言語活動の充実のためのICT活用・教師が生徒の理解に応じた英語で行う授業の推進～

○CEFR A1レベル相当以上の英語力を取得又は有すると思われる生徒の割合 (R5 : 47.7 % ⇒ R6 : 50.0 %)

1. 目標に対する現状

改善が進んだ点

①英語における小中連携の割合が改善
(R4 : 68.2%⇒R5 : 83.1%)

②「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の割合が改善
【公表】
(R4 : 70.3%⇒R5 : 76.4%)
【把握】
(R4 : 81.1%⇒R5 : 81.8%)

未だ改善が必要な点

①生徒の英語力
(R4 : 47.7%⇒R5 : 47.7%)
②生徒の英語による言語活動の割合
(R4 : 68.3%⇒R5 : 64.9%)
③教師の英語使用状況
(R4 : 69.5%⇒R5 : 54.3%)
④全国学力・学習状況調査「英語の勉強は好きですか」
(R1 : 55.5%⇒R5 : 51.0%)

2. 要因分析

①小中連携に関する県内モデル2地区の取組を英語教育担当指導主事会で還流することや小中連携を意識した研修の構築を行うこと等により、県内の小中連携に対する意識が向上した。
②令和4年度に引き続き、英語通信や英語教育担当指導主事会で、「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の意義等について発信したことで、その活用が促進された。

①②③④

②の言語活動の割合、③の教師の英語使用状況の低下から、現行の学習指導要領に基づいた授業実践に課題がある。その影響から、①の「生徒の英語力」、④の「英語の勉強が好き」の割合が低下していると考えられる。「言語活動が充実し、教師が基本的に英語を使用する授業」について、教員がその意義や効果について深く理解するまで取組が進んでいない。

3. 目標を達成するための施策・事業

* 生徒の英語による言語活動が充実するためにICTを効果的に活用すること、教師が生徒の理解に応じて英語で行う授業を推進することで、生徒の英語力向上をねらう。そのため、以下の取組を実施する。①②③④

1. 県内全体の指導改善を図ることを目的に、実証研究としてパイロット3校において、令和6年度「オンライン国際交流」を実施し、ICTを活用した、言語活動重視の授業取組内容や成果等を県内に発信等する。また、三重の魅力を1枚紙に英語でまとめる「ワン・ペーパー・コンテスト」を実施し、中学生が郷土について英語で発信できる力を育成する。さらに、参加希望する児童生徒を対象とする「英語デイキャンプ」を実施し、実践的な英語を体験することで、英語学習への動機付けを高める。

2. 内容、研修実施時間及びオフ・オンライン、ライブ・アーカイブ等の教員のニーズに合わせた多様な研修体制を構築し、教員の学びの環境を整える。

3. 英語教育担当指導主事会を年間4回程度実施し、市町の情報及び先進的な取組内容等の共有、国及び県の動向の周知等を行い、共通認識をもって課題解決を図ることで、県内全体の英語教育の改善を目指す。

4. 英語通信、県教委HP、SNS等で、県内の英語教育の成果や課題、好事例等を発信し、教員の意識向上、授業改善へつなげる。

令和6年度 三重県 英語教育改善プラン

目標

外国語でコミュニケーションを図る資質・能力の育成～言語活動の充実のためのICT活用～

- CEFR A2レベル相当以上の英語力を有すると思われる生徒の割合 (R5 : A2以上 46.4% ⇒ R6 : A2以上 50.0%)
- CEFR B1レベル相当以上の英語力を有すると思われる生徒の割合 (R5 : B1以上 12.7% ⇒ R6 : B1以上 20.0%)
- 授業における、生徒の英語による言語活動の割合 (R5 : 45.2% ⇒ R6 : 60.0%)

1. 目標に対する現状

改善が進んだ点

- ①「スピーキングテストとライティングテストの両方を実施した割合」が増加した。
(R4 : 53.5%⇒R5 : 61.5%)
- ②「CFER A 2レベル相当以上の英語力を有する生徒の数が改善した」。
(R4 : 45.5%⇒R5 : 46.4%)
- ③「CEFR B 2レベル相当以上の英語力を有する英語担当教員の割合」が増加した。
(R4 : 78.4%⇒R5 : 80.1%)

未だ改善が必要な点

- ①「CEFR B 1レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合」が減少した。
(R4 : 17.9%⇒R5 : 12.7%)
- ②「授業における、生徒の英語による言語活動の割合」が減少した。
(R4 : 56.4%⇒R5 : 45.2%)
- ③英語担当教員の授業における英語使用状況」が減少した
(R4 : 48.1%⇒R5 : 36.9%)

2. 要因分析

- ①「指導と評価」に係る研修で特色の異なる学校による取組を共有したことより、各校の現状にあったパフォーマンステストが取り入れられたと考えられる。
- ②パフォーマンステストの充実や英語担当教員の英語力の改善が生徒の英語力向上につながったと考えられる。
- ③実施した研修の結果及び新規採用者試験における有資格者の優遇処置等が要因と考えられる。

- ①生徒の言語活動の割合が減少したことも、より高い英語力を有する生徒が減少した要因の一つと考えられる。
- ②「指導と評価」に係る重要ポイントは理解されたものの、特色の異なる学校の具体的な実践例が普及できていないことが要因の1つと考えられる。
- ③授業において、ICTを活用することそのものが目的となっており、ICTが言語活動の充実に資するものになっていないことが要因の1つと考えられる。

3. 目標を達成するための施策・事業

- ②①**生徒の英語による言語活動の充実推進**
効果的なパフォーマンステストの実施方法の普及、また「聞くこと」、「読むこと」、「話すこと」、「書くこと」を結びつけた統合的な言語活動を授業を充実させ、生徒の英語力向上をめざす。
また、研修講座で他校種の教員と交流する機会を設けることで、小中高等学校のつながりを意識した効果的な英語指導につなげる。
- ①**三重県立高校生オンライン海外交流**では、海外の高校生とオンラインで文化交流やSDGsに関するテーマ等についてディスカッションを行う。
- ②**生徒の言語活動の充実推進**
自治体連携アライアンス運営委員会等に属する自治体との連携により、「指導と評価の一体化」や「パフォーマンステスト」の先進的な取組を行っている学校等を訪問、また、効果的な研修講座の運営方法等について視察を行い、情報を収集し、域内の学校と共有することで、指導と評価の一体化の実現や効果的なパフォーマンステストの実施につなげる。
- ③**英語担当教員の授業における英語使用率を増加させるための取組**
放課後に気軽に参加できる1時間の英語力向上研修を実施し、言語活動の充実に向けた授業改善について学べる機会を提供する。

三重県教育委員会

※令和5年度より算出方法等の変更有り		2023		2024		2025		2026		2027	
校種	指標内容	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値
高等学校	①CEFR A2レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合（％）	50	46.4	50		54		57		60	
	①CEFR B1レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合（％）	20	12.7	20		20		20		20	
	②授業における、生徒の英語による言語活動の割合（％）	※-	45.2	60		70		80		90	
	③スピーキングテストとライティングテストの両方を実施した割合（％）	55	61.5	72.5		75		77.5		80	
	④「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況	設定（％）	100	100	100	100		100		100	
		公表（％）	100	100	100	100		100		100	
		達成状況の把握（％）	100	60.9	65	70		75		80	
	⑤CEFR B2レベル相当以上の英語力を有する英語担当教員の割合（％）	80	80.1	80		80		80		80	
	⑥英語担当教員の授業における英語使用状況（％）	※-	36.9	60		70		80		90	

		2023		2024		2025		2026		2027	
校種	指標内容	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値
中学校	①CEFR A1レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合（％）	50	47.7	50		54		57		60	
	②授業における、生徒の英語による言語活動の割合（％）	90	64.9	75		80		85		90	
	③スピーキングテストとライティングテストの両方を実施した割合（％）	100	79.4	100		100		100		100	
	④「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況	設定（％）	100	100	100	100		100		100	
		公表（％）	100	76.4	100	100		100		100	
		達成状況の把握（％）	100	81.8	100	100		100		100	
	⑤CEFR B2レベル相当以上の英語力を有する英語担当教員の割合（％）	50	44	50		54		57		60	
	⑥英語担当教員の授業における英語使用状況（％）	100	54.3	100		100		100		100	

		2023		2024		2025		2026		2027	
校種	指標内容	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値
小学校	「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況	設定（％）	100	100	100	100		100		100	
		公表（％）	80	65.3	82	84		86		88	
		達成状況の把握（％）	100	83.8	100	100		100		100	